

8月30日大阪府教育委員会会議・審議概要の傍聴記録 全日制府立高等学校特色づくり・再編整備 第1期計画第3年次実施対象校(案)の件

高槻南高校と島上高校の統廃合案(存続校)を決定

参考資料 府高教速報など

【山崎学事課長】(資料を読み上げ説明)

- ・2学区の市毎の平均募集学級数を比較すると、2学区は高槻市の小規模化がすすんでいるので、高槻市が再編整備の対象地域となる。
- ・高槻市には7つの府立高校があり、特色づくり、志願倍率、交通の利便性、施設設備の状況などを総合的に判断して、島上と高槻南のとりくみを発展させる。島上は阪急高槻市駅から10分、高槻南はバス通学で不便だから、島上の校地校舎を使う。
- ・8学区で3校以上あるのは堺市だけである。堺市内で小規模化がすすんでいるのは、泉北ニュータウンで、ここに5校、堺東のぞいて4校ある。4校の特色づくりなどを比較し、美木多と上神谷が再編整備ということになる。美木多は光明池駅から20分で徒歩圏内だが、上神谷は最寄り駅からバスなので、美木多にする。
- ・「府民の意見を聞く会の開催を」「統廃合計画の中止を」求める要請書が新婦人・府高教・「2学区守る会」・「8学区守る会」等から提出されている。

【宮永教育委員】30人学級は理想的だが文科省では40人が標準、あとは地方自治体が負担することになる。文部科学省でやってもらわないといけない。大阪だけではどうにもならない。末端で、統廃合くり返していかなければならない。

【熊谷教育委員長】個人的には 30 人と言わず、20 人、少ないほど教育効果があがる科目がある。基本的には、1 クラスの生徒数の少ない方が教育的にはいい。子どものためにはどういう方式がベストか考えることが大事だと思う。

【宮永教育委員】私の子どものころは 40 人以上が当たりまえ。いま、なぜ 30 人が問題になっているのか、理解できない。

【和佐教育振興室長】生活集団としての学級規模は 40 人だが、選択科目は少人数でやっている。今後、少人数授業はますます増えていく。

【熊谷教育委員長】少人数授業ができているという現実があるのに、なぜ教職員組合は「府教委は 40 人に固執している」と言うのか理解できない。

【竹内教育長】それは、学級規模 40 人を 30 人にして欲しいとっている。しかし、私も 50 人つめこまれていた。正直言って、今は子どもの自立性が総体的に弱まっている、全体的な子どもたちの知的意欲が弱まっている、かつての学習集団の規模では耐えられなくなっている。教職員組合は 1 学級の生徒数を言っているが、府教委は学校あたりの生徒数、学校規模を問題にしていて、学校の活力を保つためには 1000 人ぐらいが適正規模と考えている。学年規模で言うと、これが 1 学年 8 クラスということになる。

【津田教育委員】先生と子どもの比率で、子どもの比率が少ない方が授業わかりやすいのは当然。産油国なら、教育費無償でできる。日本が産油国になるなら話は別だが、日本の場合はどこからも金が出てこない。小学校の低学年は少ない方がいいが、高校は基本的には 40 人がいい。自分は三国丘高校の出身だが、1 クラス 50～55 人で 10 学級だったが、あのおきの方が子どもは学力があったと思う。先生の熱意も違った。名物先生が一杯いた。教える方

も必死だった。先日、私学の横浜桐蔭高校の校長が「1クラス50人学級がいい。生徒間に競争力がわいてくる」と言っていた。40人は、本来、先生の指導力で引っ張れる。むしろ、現在の問題は、学級の生徒数ではなくて、教える方に問題があるのではないか。

【熊谷教育委員長】少人数学級つくるなら、義務教育からすべきで、高校はそのあとだ。40人でも十分まっとうな教育受けられる。できることなら、30人ならもっといいかもしれない。優秀な教員をそろえて、処遇できる財政力があれば、30人にした方がベターかも知れない。「なぜ30人にしないのか」と要望書などには書いてあるが、できる範囲でやるしかない。また、「なぜ、計画進学率を機械的に決めるのか」と要望書などには書いてあるが、どういふことか。

【竹内教育長】計画進学率は今、92.3%。今の状況で引き上げれば、住之江高校のような困難な学校がでてくる、住之江高校的現象がでてくる。受け入れきれぬカリキュラムや運営体制などを整備しないと、今のままで計画進学率を引き上げて受け入れたら、色々困難が起こってくる。これらの困難を極力受けとめられるように、教育の中身を考えていくことが大切だ。

【熊谷教育委員長】進学率を計画的に決めるのはおかしい。私は事情を知らないから、間違っているかもしれないが、高校に行きたい子を全員受けさせて、無理という子を除いて、結果として進学率を決めるべきだ。少々、生徒が来過ぎたら、みかん箱おいて勉強させたらいい。そう簡単には言えないか。ただ、受け入れて、ダメと烙印押しして出すのは社会的に問題。それなら、高校に受け入れるときにダメと考えさせる方が本人のためにも、社会のためにも

いい。とにかく、計画進学率という言葉は気に入らない。

【宮永教育委員】 中学校を卒業したら、企業も役所も「はい、どうぞ来てください」と受け入れたらいい。そして、就職してやっぱりダメだったら、また勉強し直したらいい。

【竹内教育長】 中学校で就業体験を実施している。社会に出ていくためには数学とかをやらなアカンと動機づけしている。

【熊谷教育委員長】 要望書は「中卒生が減ったから高校減らすのか。土地を売り飛ばすのはおかしい」「財政のしんどいのを、子どもに皺寄せするのはおかしい。教育行政の責務の放棄」という趣旨が多い。「賛成だと、これに何万人かが署名している。」

【宮永教育委員】 この前の校舎は、もう売ったのですか？

【伊藤理事】 まだ在校生がいるので売っていません。

【宮永教育委員】 卒業したら、売るのですか？

【伊藤理事】 使わなくなる土地は使用目的を失う。売却することも選択肢。しかし、売るために統合するのではない。

【網倉教育監】 昨年も同様の説明をした。ある程度の学校規模が必要だから、小さな規模になった学校2校を1校にして、いい学校にしたいのだ。この考え方はある程度、理解していただいている。

【熊谷教育長】 これは、私たちもずいぶん議論しての計画だ。適正規模をわった2校を適正規模にするために統合する、通学その他に出来るだけ影響でないように配慮しながら。今よりはよくなるという建設的な意義をめざしてやってほしい。「特色づくりに名を借りて学校つぶすのか」「なぜ30人、20人

学級にしないのか」などと要望書にはあるが、できたらええけど、出来ないものはできへん。」「関空やめてまえ、南の土地(りんくうタウン?)に金を使うな」と要望書にはあるが、関空については「滑走路は必要や」という声が多い。南の土地、できたもんはしゃあない。府民が選んだ知事、議員が決めたこと。それを私らに言われても仕方ない。できる中でやらなしゃあない。私にお金がたくさんあれば、何とかできるかも知れないが、税金はみんなが納得できるように使うべきで、現実にはできることからやっつけていかな、アカン。私たちは、この方が高校にとって、教育にとっていいと判断して、進んできたのにこんなふうに言われるのは心外だ。

【津田教育委員】 委員長の言われる通り。

【熊谷教育委員長】 高校教育を良くしていくためにやる。異議ありませんか。

【松永教育委員】 その通り

(井村教育委員は欠席「賛成、各方面に十分説明を」) 以上30分で議決

2001年11月16日

大阪府教育委員会議 大阪府立高槻南高校廃校決定

統廃合案を正式決定

< 10時より開会、第一号議案として、住江の件を10分程度論議の後、統廃合案件である第二号議案に入る。 >

第二号議案

熊谷教育委員長: お願いしたいことがある。高槻南に関するPTAからの申し入

れについておはかりしたい。要望事項は3点あって 直接に学校に足を運んで欲しい、 生徒の声を聞いて欲しい、 （これらをするために）本日の決定を延ばして欲しい、というものだが、これらについて相談したい。

松永教育委員：手紙が多数来ている。見たが、保護者の思いがひしひしと伝わるものだ。子ども、生徒からのビデオレターも見たが、いまの府立高校の象徴のひとつだと、本当にうれしく思った。いろんな課題を抱えた府立高校の中で貴重なもの。われわれは特色づくり、再編整備の中で高校改革を考えてきた。成功も挫折もあるだろうが、子ども達が「あの学校へ行ける」ではなく、「自分が行きたい」というところへ行けるように。対象となる学校での特色作りをしなければいけない。単純に学校を減らすだけなら基準をつくってやればよい。そうではなく、両校の良いところを引き継ぐ「統合」という方法をとったのだ。これがどうして伝わらないのか、歯がゆい思いだが、これまでの経過を説明して欲しい。

教育委員会事務局：事務局として校長からの要請を受け、生徒代表、PTA と数回にわたり話し合いを持ってきた。11月3日にはこれまでの説明でなおわからないことをペーパーにまとめて事前に提出してもらい、回答した。昨日11月15日にはPTAの署名提出があり150名ほどの生徒さんを伴って来られた。この場で生徒からも意見表明をされたが、その意見はおおむね、*統合では高槻南の伝統は引き継げない*地域や中学校から支持されている*私達は納得していない、の3点だ。

熊谷：PTAの手紙では「要するに実質廃校だ」という理解が基本になっている。いままで29年培ってきた伝統が絶たれると・・・なんで高槻南が対象か？

という点が基本になっている。その点の理解が得られていない。統合整備はどちらか一方を廃校にするのではないということをわれわれ（教育委員）は最初に理解したつもりだが、事務局はこの点でどういう説明をしているのか？

事務局：どちらか一方を廃校にするのではなく、両校の実績を新校に引き継ぐということを説明して来た。実際、校長、教頭、教職員でプロジェクトチームをつくり、この中で両校の伝統を受け継ぎ発展拡大するように、と説明している。しかし、校地が使われない、校名も変わるということで理解されない、と受け止めている。

熊谷：われわれはよりよい高校の発展を期待しているのだが・・・校舎・校庭がなつかしいというのは誰でもあることだ。学校の良い実績を引き継げば・・・と思うのだが。PTAの手紙でも先生、地域の支援があつてこそそのよい伝統、とある。それは私もそうだ同じと思う。しかし、それが再編整備すると断ち切られるというのはわかりにくい。いままではできたが、これからはできない、というのはわかりにくい。

事務局：学校は（校舎・校庭などの）ハードではなく、ハードを仲立ちとして、人がつくるものだから、2校が協力して引き継げるもの、と説明しているがどうしても議論がかみ合わない。

三林：手紙をいただいたが、そのときも申し上げて、ビデオが来たときは私は開封しなかったんです。（教育委員会）事務局のほうからいただいて、それから見ましたが、見ていい学校だと思いました。ただ、単位制の件は・・・私の知っている人で東京の方の単位制にいつてる、けっこうキラキラしている子がいるんです。だから、私は大阪でももっと単位制高を増やして欲しいと思って

いるのに、いい学校にできる、いま以上にすばらしい学校にできると思っているのに・・・

熊谷：あのビデオですばらしい学校と思いましたが？（ええ）私はそうは思わなかった、短いものでしたが、あんなのは普通の高校ですよ・・・

三林：私は、（単位制にして）うまくいけば大阪でも屈指の学校になるんじゃないか、と思っているのですが・・・思いが伝わっていない。むつかしいな・・・と。

津田：大前提となっているのは出生率が 1.5 を切っていること。この状態で東京や和歌山では全県一区をやっている。大阪でそれをやればものすごく廃校になる学校がでる。

全国で大阪のように、公立高校がこんながんばっているところはない。国公立の大学への進学で。この伝統を守ろうとすれば統合はさけられない。（学校に行けば情が移る、手紙も今までのなかでは抜群にいい。私達は他に仕事を持ちながら一ヶ月に1回しか来ないが、ちゃんと聞いてやって下さいと言ってやってきた。両方足して考えて、つらいけど、これも時代の宿命のようなものもある。伝統というのはこれからのものもある。戦後の新制中学発足のときもすごい統合があった。野球部でも統合された学校で伝統が引き継がれている。ただ、ぼくは単位制というのはいいと思うが進学という軸から言えば低いと思う。その点で得心しない。単位制にしなくても・・・と思うが。これからのことを考えれば、とわりきれしていない。新しい校舎で、ということだが、高槻南の何かを持って来れないか、たとえば校名を高槻南にするとか・・・学校の統合は宿命だ。人数少なくはだめだ、しょうがない、と思うが。

事務局：単位制のイメージ低いというのは大阪ではそう。桃谷など定時制で・・・（と説明）、府民のすなおな感情と思う。ご承知のように再編計画では全日制単位制高校は4校設置の予定だ。今回の高槻南は北部大阪地域の拠点となる。島上高校は学校としてこれまでの多様な科目展開の実績を踏まえて単位制をめざしていた。高槻南も普通科として基礎学力充実に力点を置き国際交流などの実績。2学区での統合を考えたとき、単位制を活用すれば加配なども可能となる、科目の中身も大切だが高槻南はそれをもっている、この方向で検討した。「南」の名前の問題は「何かを」ということもあるので、決定されれば両校の関係者で今後協議することになるが、なくなる校舎の学校の思いを聞いて行われている。

井村：私は両方の学校の環境を知っている。島上の場所はお城の跡で文化的な香りのするいい場所だ。高槻南のあたりは学校が集結している。単位制は交通の便が大切だから島上が最適の場所だ。しかし高槻南の跡地が住宅になったりすると雑然としてしまう。廃墟となってしまう。島上の周辺ももっと整備することを高槻市でも考えて欲しい。

事務局：跡地利用だが、跡地をにらんで統合をやるのは間違いだと考えている。跡地はこれから高槻市と協議して。島上は城址公園と関連して整備を・・・

井村：高槻南のようにクラブ活動が盛んなのは、単位制と同じくらい魅力がある。すでにやられているとは思いますが、この伝統はこうやって継続される、ということをもっと前に出されて不安材料をなくすようにしていただきたい。

事務局：運動部活動は府高体連、高野連などに・・・平成9年に・・・統

合となる場合、両校での合同チームででられるようになっている・・・この取り扱いが全国大会でもできるように要望している。統合プロジェクトチームで具体化することになる。

松永：PTAの申し入れに戻りたい。統合整備を廃校と捕らえられている。思いを聞いても「廃校」というものを払拭しない限り、私達の概念と交わることはない。説明責任は十分に果たしたと考えてよい。しかし「納得できない」というものに集約されてしまうのは残念だ。

熊谷：自分達に通っていた学校がなくなる、という気持ちはわかる。単位制にすると・・・というが単位制、学年制を考えるのはあまり本質的な問題ではない。学年制は成績が悪ければ留年し2年続くと退学、今は違うのかな・・・だし、単位制はたとえばそれを6年でとれば良い、というような、それだけの違いだ。単位制については、内容についても加配があったりより充実した教育方法が取り入れられるということもある。単位制ということで根本的に違う学校になるような印象を与えるクライがある。感覚的になるが・・・残念だ。長い時間をかけてくりかえし議論をして来た。よりよい教育環境を作るためには再編整備をやらざるを得ない。そういう基本的な考えを高槻南PTAへの回答として出したい。返書の原案、私案を作ってきたのでご意見をいただきたい。

<事務局から・・・文書が配布され、読み上げられる（傍聴には当然、無し）>

”・・・昨日をふりかえるのではなく、新しい方向へ・・・”等々

熊谷：ご意見は？

津田：「21世紀の大阪を支える人材」ではなく。「日本を支える」と。いや、日本も小さい「世界を」

三林：そういう学校にしてほしいですね。

津田：地域の明示はやめて「21世紀を支える」が良い。

熊谷：そうしましょう。

井村：高槻南の思いがある。それが生きてゆく、ということ。

熊谷：2枚目にその記述が。

井村：まだまだ（伝統を）反映する場所があるということ。

熊谷：この「うれしく思うものですが」の「が」を取るべき。「思うものです。」
でよい。

竹内：（小さい声でボソボソ）「両校の???を統合することによって・・・」
と。

熊谷：「統合整備によってより良い学校ができることを強く期待しております。」としましょう。さて・・・

三林：東京で単位制に行っている子が学校をよく調べて見たら定時制だった。
（統合してできる学校は）あくまで普通科だと、普通科でプラスアルファがある
学校に・・・

熊谷：PTAの文書の方はよろしいですね。（ハイと返事）

それでは議案の方の説明をして下さい。

<事務局より説明。8月30日以降の経過が説明される。この中で11月13日付けで高槻市長より（統合校地の島上について）城址公園の整備に関連して市と十分協議を、との要望があったことが紹介される。議案自身の中身は「8月30日と同じです。」とひとことのみ>

熊谷：説明がありましたか・・・

津田：けっこうです。

熊谷：議案の説明は？

事務局：8月30日と同じと申し上げました。「案」を取っていただければ。

熊谷：先ほど来のPTAへの文書で内容についても論議したが・・・

井村：高槻市長からのものは急に来たのか（「はい」という返事）

松永：第6学区の港南高の件で最近になって署名が来ているが、これは普通科をなくするという事なのか？

事務局：デザイン分野の専門高校をつくるということで普通科はなくなる。

松永：反対、反対、普通科なくなるという生徒からの声がある。

事務局：大部分の生徒は校長から説明を受けて、そのまま。一部の生徒さんの声。

熊谷：それでは、（全員「異議無し」の声）。

（この間、ほぼ一時間）

この後、第3号、4号議案が終わり、その後は処分案件のため傍聴者、記者が退室するにあたって、熊谷委員長が「わざわざ」（これは少し傍聴者の価値判断の入った言葉使いですが・・・）

熊谷：特に、第2号議案について、2点事務局に申し上げたい。

1点目は、生徒、子どもの心情を踏まえて（統合を）行っていただきたい。

2点目は、PTAの方々に、ぜひ前向きになって、とお伝えりたい。

<この後、傍聴者は退室。11時40分すぎ。>
